

【授業科目】 精神看護援助論Ⅱ(精神障がいと看護) Metal Health and Psychiatric NursingⅡ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
松田 陽子、大西 信行、永住 沙樹	3年次前期	必修	1	30	演習	あり	巻末掲載	否
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対するフィードバック方法	<p>精神疾患をもつ対象を理解し、適切な援助方法を習得するために、ロールプレイの演習や実際にプロセスレコードを記載し学習を深める。また、授業概要／精神疾患をもつ対象についての理解を深め、対象者を理解するために必要なデータを収集し、バイオ・サイコ・ソーシャルな側面から全人的に対象を捉えアセスメント・看護計画の立案を行う。事例から、精神疾患によってどのように生活や人生に影響を与えるのかを様々な角度から考え、支援する方法を演習にて学習する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／毎回振り返り表を学生は記入し、学習状況を確認する。質問内容等については全体に適宜講義中にフィードバックする。課題提出に関しては、内容にコメントを記載し講義中に返却を行ってフィードバックする。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 精神看護における看護師-患者関係について理解を深め、看護の実際をイメージできる。 ② 精神の障がいをもちながら生活する人とその家族への理解を深め、対象者の状態に合わせた看護援助のプロセスと方法を理解し看護計画に立案できる。 ③ 精神疾患をもつ対象者への基本的な援助と看護の実際を立案できる。</p>							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>第1～3、6、11回 教科書、精神看護学援助論Ⅰの講義資料の他、精神疾患を持つ対象の理解を深めるために、参考書等を活用しながら精神疾患を持つ対象への看護について復習すること(各30分)。 第5～15回 演習ごとに提示された課題の記録をその都度整理する。解説を基に、記録用紙に情報を追加・修正していき確認すること(各30分)。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 患者-看護師関係、自己洞察の方法 患者-看護師関係 自己洞察の意義、プロセスレコードの書き方、治療的コミュニケーション、次週からのロールプレイの説明</p> <p>第2・3回 患者-看護師関係 精神症状のある患者さんへの対応 ロールプレイ(前半、後半に分かれて) 治療的コミュニケーションとは(前半・後半に分かれて 自己学習)</p> <p>第4回 精神科病棟での看護の実際 外部講師 精神科認定看護師による講義「精神科看護の実際」</p> <p>第5回 プロセスレコード作成 課題①プロセスレコード提出</p> <p>第6回 看護過程:精神疾患をもつ対象者の理解と個別的な援助を導き出すために ゴードンの看護理論、事例紹介:統合失調症患者</p> <p>第7回 精神疾患をもつ対象者の理解:事例から看護過程を展開する データベースの紹介(整理分類の方法)、アセスメント</p> <p>第8・9回 精神疾患をもつ対象者の理解:事例から看護過程を展開する データベースの意味を理解しながら情報整理、アセスメント 課題②:データベース・アセスメント(6/4火1 講義終了時)</p> <p>第10回 プロセスレコードフィードバック (プロセスレコード返却)</p> <p>第11回 精神疾患をもつ対象者の理解:データベース・アセスメントの解説 (看護過程返却)</p> <p>第12・13回 精神疾患をもつ対象者の理解:全体像のまとめ、ケアプランの作成 データベース・アセスメントをもとに、優先度の高い看護問題の抽出と看護目標を設定 看護問題、目標の設定の説明 ケアプランを作成する:具体策の立案 課題②修正したデータベース・アセスメント、全体像、ケアプラン</p> <p>第14回 精神疾患をもつ人への看護:ワークシートの作成 事例Aさんの受け持ち3日目の情報追加、3日目の行動計画の立案</p> <p>第15回 精神疾患をもつ人への看護:全体像 ケアプランの解説 看護過程まとめ、セクシャリティ</p>							<p>大西</p> <p>全員</p> <p>外部講師(松田)</p> <p>大西・松田</p> <p>大西・松田・永住</p> <p>大西 松田 永住</p> <p>大西</p> <p>永住</p> <p>松田・永住</p> <p>松田</p> <p>松田・永住</p>
評価方法 評価基準	<p>課題①プロセスレコード30%、②看護過程(データベース・アセスメント)30%、③まとめ、ケアプラン30%、 受講態度10%</p>							
教科書	『精神看護概論・精神保健』メヂカルフレンド社 『精神障害を持つ人の看護』メヂカルフレンド社 (2年次前学期「精神看護学概論」で使用したものを使用)				参考書等	なし		
学生への助言等	<p>主に看護過程の展開とロールプレイやプロセスレコードの演習を通して看護の実際を学んでいきます。授業に出席し、毎回の課題をクリアしていくことが要求されます。授業中の飲食・教室の原則出入り禁止、携帯電話禁止。</p>							